

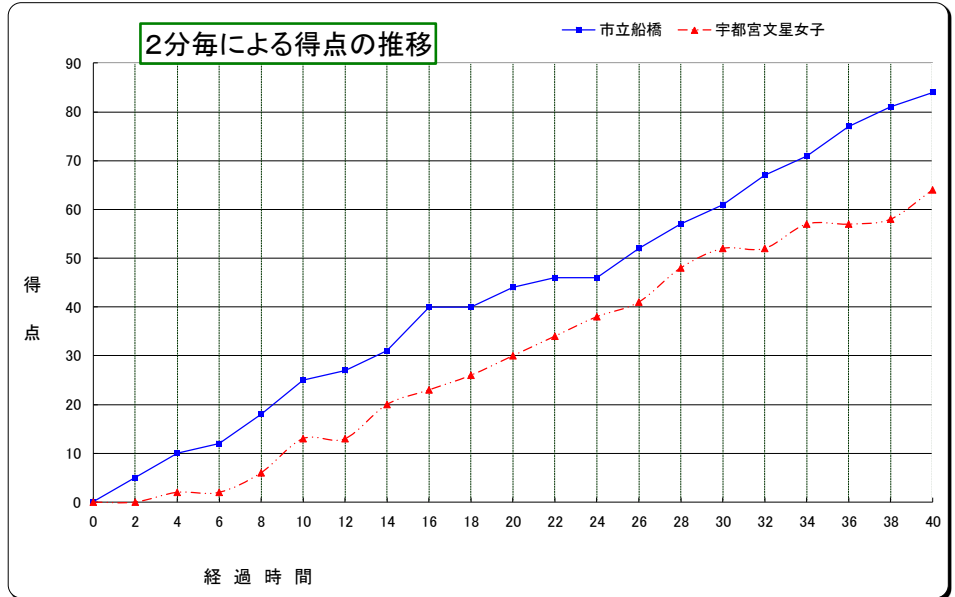
平成24年度第66回関東高等学校 女子バスケットボール選手権

平成24年6月9日(土)
さいたま市記念総合体育館
Bブロック第1回戦

チームA 市立船橋 (工芸)	84	{ 25 1st 13 19 2nd 17 17 3rd 22 23 4th 12 OT	64	チームB 宇都宮文星女子 (栃木)
------------------------------	-----------	---	-----------	---------------------------------

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	倉脇 梢	20	2	9	7	12	0	0	1	4	7	5	5	0	6
5	小亦 晶来	6	0	0	2	6	2	5	1	2	3	0	0	0	1
6	松崎 亜美	5	0	0	1	3	3	4	0	1	1	0	0	0	0
7	岡田 彩	4	0	1	2	5	0	0	2	1	4	0	1	0	1
8	高旨 里奈	18	1	2	7	11	1	1	3	5	7	0	3	0	3
9	小島 弥弓	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	中村 奈津子	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	水島 晴香	8	1	1	2	4	1	2	0	2	1	0	0	0	4
12	小林 絵梨子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	森 海生香	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
14	佐久間 優芽	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0
15	竹田 香歩	16	0	0	7	15	2	3	1	4	2	2	1	1	3
16	小野 菜	5	0	0	2	5	1	2	1	2	0	0	3	0	2
17	齋藤 ちはる	0													
18	山田 菜摘	0													
コーチ	高松 淳史									2	5				
		84	4	16	31	64	10	17	10	23	30	8	13	1	21
		確率	25.0%		48.4%		58.8%		計		53				

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	藍原 なつき	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	野口 裕加里	6	0	0	3	9	0	2	2	4	5	0	0	2	3
6	鈴木 美雨	4	0	0	2	8	0	0	2	0	5	0	3	0	5
7	大里 悠碧	14	2	3	3	9	2	3	2	2	1	2	1	0	2
8	益子 優希	8	2	3	1	4	0	0	1	0	1	0	1	0	0
9	暮石 有紀	0													
10	呼子 遥香	3	0	1	1	4	1	1	2	3	2	0	0	1	5
11	樋口 愛香	8	2	3	1	4	0	0	3	1	1	2	1	0	3
12	田辺 萌夏	10	0	0	4	10	2	3	3	1	8	0	0	1	6
13	三河 奈央	6	0	0	3	8	0	0	0	1	1	0	0	1	1
14	大音 茉由	4	0	1	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0
15	坂田 実香	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	駒形 汐里	1	0	0	0	2	1	2	1	2	0	0	0	0	0
17	滝 由衣	0													
18	小林 愛美	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
コーチ	伊藤 伸由									1	6				1
		64	6	11	20	60	6	11	17	16	30	4	6	5	26
		確率	54.5%		33.3%		54.5%		計		46				



戦評

千葉県予選では5位での出場となる市立船橋はスピードとシュート力が持ち味のチーム。一方宇都宮文星女子は1年生を6名エントリーで追加、新戦力に注目される。

第1P 互いにマンツーマンディフェンス、船橋は速い展開からファーストチャンスで積極的にミドルシュートを狙う。文星は緊張からかシュートミスがめだつ、最初のゴールは速攻で決めるがミドルレンジのシュートが決まらない。船橋#4倉脇がスチールからゴールを決め残り6分10-2と船橋が主導権を握る。特に大型の選手がいない両チーム、インサイドでの決定力を共に欠き得点が伸びない。しかし船橋はオフェンスリバウンドを支配し、#16小野・#8高旨がミドルシュートを決めリードを広げる。文星は固さの見られる上級生に代えて#10呼子・#13三河を投入、#13三河は期待にこたえドライブからゴールを決める。船橋は#15竹田がリバウンドで活躍、一気に船橋に流れが行くかと思われたが、終了間際文星#7大里が1対1からゴールを決め12点差で第1Pを終える。

第2P 文星はボールマンのマークを厳しくしフロントコートからプレッシャーをかける。堅さのとれてきた文星は#6鈴木のミドルシュート・#5野口のカットイン・#10呼子のゴール下などで9点差まで詰め寄る。しかし全員オールラウンドにプレイする船橋のオフェンスを守り切れず再び17点差まで突き放される。残り4分、文星はマッチアップゾーンディフェンスで反撃を試みる。このディフェンスは功を奏したが、肝心なところでオフェンスリバウンドを船橋#15竹田・#4倉脇に奪われ点差を縮められずに前半を終了する。

第3P ともにスターティングメンバーで再開。文星はオールコートマンツーマンディフェンス。#11樋口の3Pシュート・スチールで10点差、さらに#12田辺のミドルシュートで8点差。船橋はシュートセレクが慎重になりここから10点差をめぐっての互角の攻防が続く。文星#11樋口の3Pシュートが要所で決まる、船橋も負けじとターンオーバーから速攻・#4倉脇のミドルシュート・#16小野のドライブ等で加点、9点差で第4Pへ。

第4P 文星は早めのヘルプやピンチプレイで船橋の1対1を苦しめるが、ディフェンスリバウンドがとれず船橋に先行を許す。文星は残り時間を考え積極的に攻めるディフェンスをするが、船橋はこれをかわし残り6分16点のリード。何とか追い付きたい文星はオールコートプレスディフェンスで挽回を図るが、船橋の堅い守りにシュートの決定力を欠き追い付くことは出来なかった。戦力的には同等の力を持っていると思われる両チームだが、序盤の動きの硬さと要所でのリバウンドが文星にとっては悔やまれるゲームであった。